

Second Style ~地域に開く住まいの提案~



○コンセプト
 少子高齢化・過疎化 という問題を抱える 地域ならではの
 町民性を活かし集える 温かみのある住宅
 子育てを終え、夫婦で過ごす 二度目の時間



○地域の特性
 宮城県 七ヶ宿町：県の南西端に位置し、豊かな自然が破壊されずに残る町。
 四季折々の変化が美しい山々や広大なダム湖が広がっている。江戸時代には
 宿場町として栄え、いまでも当時を感じさせる歴史深い街並みが残っている。

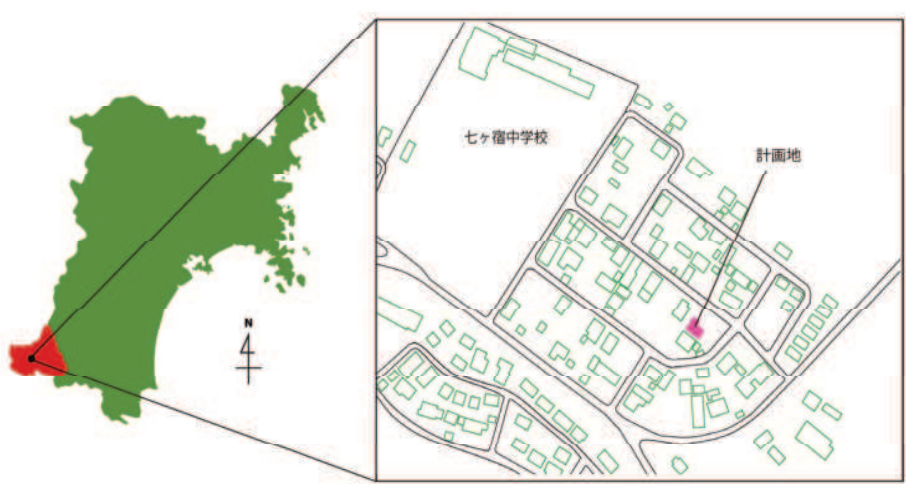
だが一方で、地域の過疎化がすすみ、「限界集落」に近づきつつあるという
 問題を抱えている。季節によって様々なイベントがあり、また、名産品として
 そばが有名であるが、あまり知られていないのが現状である。

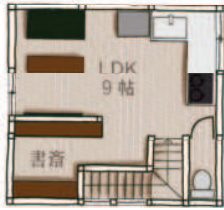
また、年々増加する空き家も課題である為、地域の制度を利用し、空き家にな
 っていた住宅を改装する。

住民が少ないからこそこのアットホームな町民性がある七ヶ宿町の人々が、
 家族のように集えるコミュニティの場となるものが必要だと考えた。



○家族構成
 ・夫 (54) 妻 (52) 子育てを終え、東京から自然豊かな七ヶ宿町に移住
 ・夫は、自宅でデスクワークをする傍ら地域の子供達にパソコンを教える
 ・妻は、趣味であるお菓子作りを活かしてカフェを営む





2階平面図



○平面図

子どもからお年寄りまで 様々な人が
利用しやすいよう動線に配慮した。
また、机や椅子を木目を活かした
デザインにすることで、柔らかな印象を
持たせるようにし、中庭はドックランを設けたり、
子ども達が伸び伸びと遊べるよう広く計画した。

○配置図

カフェスペースから外へのアクセスが容易にできるよう配慮した。
駐車場を離れたので子供との接触事故などを防止できる。反対に、居住スペースは木で遮ってプライベートを確保した。
広い土地を存分に利用した セブテ宿町ならではの配置になっている。



1階平面図 兼 配置図 (1/100)



○カフェ内部

和モダンを基調とした、温かみのある空間に。
天井・柱・床・テーブルには、地場の木材をふんだんに使用している。
障子を設けるなど 宿町だった頃を 思い起こさせるような 内装に デザイン。

○カフェテラス

庭との仕切りをなくし、開放感のあるテラスを計画。
豊かな自然の下 この空間にいる すべての人が
心を安らげ 繋がりを広げられる場所を イメージ。



○ドックラン

テラスに向かうところに橋がかかっている。橋の周囲はドックラン。
ドックランには犬たちが遊べる遊具が設けている。
犬を眺められるベンチの側には妻の手掛けた花のアーチと花壇。
塀にも花を植えてあり、四季を感じる事ができる。

